資料 4

ふるさと教育の推進に向けて（検討中）

1　目的

子どもたちを取り巻く環境が急速に変化する時代において、ふるさとのよさを学習して地域や外部に向けて発信することや地域の課題の解決に向けた探究活動への取り組み、また小中学校と地域をつなぐ「鳥取県地域コーディネーター」の養成や中学生と大学生や大人とのトークセッションを導入することにより、ふるさとへの帰属意識を高めてアイデンティティ（主体性、自己同一性）を醸成するとともに、ふるさとへの誇りと愛着を持ち、県内外で将来にわたってふるさとの発展に向けた取組に参画し、郷土を支える人材を育成する。

2　背景

○ふるさとへの愛着を育む取組について、小学校・中学校は連携が図られているが、高等学校への接続に課題がある場合や学んだことをアウトプットしていく機会が少ないなどの現状がある。

○地域行事に参加している児童生徒の割合は高いが、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心はあまり高くないなど、地域や社会をよりよくしようとする考えをもつ児童生徒が少ない。

○将来の夢や希望を持っている児童生徒の割合が全国に比べて低い。

○新学習指導要領において「社会に開かれた教育課程」がキーワードとして示され学校と地域との協働を一層充実させることが求められており、双方向のパートナーシップが求められている。

○平成 27 年 11 月に鳥取県教育審議会答申「今後の生涯学習振興施策及びとっとり県民カレッジのあり方（答申）」において、本県の生涯学習と地域振興を支えるため、地域リーダーやコーディネーターの育成の必要性が示されており、地域側の核となる人材育成が求められている。

3　内容

（1）「ふるさと鳥取」（ふるさと教育読本）（仮称）の作成

・「ふるさと教育」の意義を設定した上で、幼稚園・保育所・認定こども園等から小学校、中学校、高等学校までの各段階におけるふるさと教育が系統的な学びとなるよう、現在取り組まれている学習を「知る」「行動する」「創る」の視点から再構築する。

・県民として知っておいてほしい人物、事柄等を集めた冊子を作成して小学校や中学校等に配布することで、過去や現在のふるさと鳥取について学べるようにする。（初年度：小学校４年生対象、次年度：中学校１年生対象）

（2）ポータルサイト「ふるさと鳥取」（仮称）の構築

・「ふるさと鳥取」（ふるさと教育読本）の情報等をウェブ上で共有して児童生徒が主体的に学べる環境を整えることで、ふるさとの魅力を発信したり、ふるさとをよくしていくための提案をしたりするなど、未来のふるさとについての学びにつなげられるようにする。

（3）ふるさと学習コンクール及びふるさと学習研究発表大会の開催

・ふるさと学習において児童生徒が学んだことを発信・提案できるコンクールを開催する。

・コンクールの表彰式に併せて、鳥取県出身（または在住）の著名人による講演会を開催する。

（4）中学校でのワークショップ（トークセッション）の実施

・中学生、大学生、地域の大人の三者が少人数のグループになって人生観や職業選択等について相互に語り合うワークショップを実施し、中学生が地域の人を知る機会を提供するとともに、ふるさとへの愛着が形成されることを図る。

（5）「鳥取県地域コーディネーター」の養成

・学校と地域をつなぐ「鳥取県地域コーディネーター」を養成して、地域での社会教育を担うとともに地域全体で子どもの成長を支え、子どもたちの地域への愛着・貢献意識の形成を図る。

4　期待される効果

○自分の住む地域や鳥取県への理解が深まっていくとともに、ふるさとへ鳥取へのプラスイメージが高まる。

○ふるさと鳥取への帰属意識や地域や社会で起こっている問題や出来事への関心が高まり、地域や社会をよりよくしようとする考えをもつ児童生徒が増加する。

○中学生にとって年齢的に近い大学生や身近な地域の大人との対話を通じて、大学生の「進路選択」、「今学んでおくべきこと」、地域で活躍する大人の多様な価値観、人生の選択、働くことの意味、地域の課題等を直接の会話の中から得ることにより、地域への愛着、仕事に取り組む姿勢や思いや意義を知るなど、異世代交流が図られ、自らの将来（キャリア観）と地域（ふるさと）について、主体的に考えられる生徒の育成が図られる。

○地域コーディネーターの養成により、地域と学校が協働してふるさと教育・キャリア教育も含めた人づくり・地域づくりを行う地域学校協働活動の推進と、コミュニティ・スクールの導入促進を図る。